



安心 × 子ども × 居場所

とある金曜日。サンウエルぬまづの多目的ホールに元気よく駆け込んできた男の子を「おかえり！」とハリのある声で迎えたのは「Space for children」の代表はし(以下かけはし)の代表を務める岸本さん。

令和4年からスタートしたかけはしは、10時から14時は学校に行くのが苦手な子どもたちを受け入れ、14時を過ぎると誰でも参加できる居場所として活動しています。

参加する子どもたちは、年齢も性別も、校区も抱えた想いも様々。沼津市社会福祉協議会の担当者が「子どもの居場所の理想形のひとつですね」と評するかけはしは、岸本さんが自身の経験から必要だと感じた「学校でもなく家庭でもない、話を聞いてくれる人がいる場所」を実現するべく、ボランティアの協力を得て活動しています。

岸本さんは「沼津はチャレンジすることを応援してくれる人が多いなって思っています。だからこそ困っている子どもたちのことも応援したい。さらに



いうと、かけはしの活動も応援してもらえたら嬉しいですね」と笑います。

子どもの居場所を運営している人たちが応援することは間接的に子どもを食料の寄付も素直にありがたいといえます。子どもの居場所を運営する団体にボランティアとして参加すること、寄付をすることはまさに居場所づくりのサポートです。

困っている子どもがいたら「こんな居場所があるんだよ、こんな活動があるよ」と教えてあげることも居場所づくりに関わることといえます。

岸本さんの「気持ちとして居場所になれば、そこはれっきとした子どもの居場所」という言葉から分かるのは、子どもたちに声をかけてあげることも居場所づくりのひとつということ。さらに



スマイル S M I L E きもちよい子ども食堂

大岡小学校のほど近く。就労支援事業所や放課後等デイサービスが入るビルが、まるでお祭りのようににぎわっていました。この日は、月に一度のスマイルキッチン子ども食堂のイベント開催日。何かに困っている子どもだけでなく、たくさんの子どものたちや近所の大人たちが、手間ひまかけたミートソースのスパゲッティに舌鼓を打つ姿が見られます。

みんなで一緒にご飯やおやつを頬張

たばちゃん子ども食堂

仲見世商店街にある居酒屋たばちゃんの前には、リボン型マグネットが貼り付けてあります。これはフードリボンプロジェクトという取組で、お酒を飲みに来たお客さんや通りかかった人が寄付をすると、マグネットが増えます。そして、子どもたちがこのマグネットを使い、家庭的であたたい、お腹いっぱいになるほどの食事が食べられるという仕組みです。

ランチタイムと居酒屋営業の間、飲食店でいうところのアイドルタイムに

おいしい × 子ども × 居場所

店内には、子どもたちの「おいしいー」「かきくまでしたー」という元気な声が響いていました。

代表の望月さんは「飲食業に関わる人って誰かに喜んでもらいたいという想いが強いんですよ。困っている人がいたらサポートしたいし、居場所を必要としている子どもがいたら応援したい」と話し、厨房で仕込みに励む浩平さんも「メニューを考えるのは大変なんですけどね(笑)。せっかくならおいしいものを食べてほしいです。子どもたちのおいしかったーの一言は本当に嬉しいですね」と教えてくれました。

楽しい × 子ども × 居場所

辺りを木々に囲まれ、見上げればきれいな空が広がる西熊堂の栗畑。遊具も、立派な園舎もないこの場所で、沼津市で初めての「森のようちえん」「里山保育こまめ」が活動しています。北欧で始まった森のようちえんは、国内でも広がりを見せており、子どもたちに自然体験の機会を提供しようと活動する団体や個人が増えています。

平野さんたちスタッフは、虫を追いかける男の子、水遊びをする子どもたちをまつすべな眼差しで見守りながら「観察すること、そして理解すること。私たちが整えるのは子どもの可能性を引き出せる環境です」と里山保育こまめのコンセプトを語ります。

必要以上の危険がないように見守ることは前提として、どんな活動があるよというのを



ただでなく、フードバンク(まだ食べられる食料などの寄付を集め、困っている人や団体につなぐこと)としての役割も担っているそうです。

昔、子どもだった皆さんへ。

ここまで紹介したのはほんの一例ですが、市内には様々な子どもの居場所があります。食事の提供や学習支援、遊びや体験の提供、多世代の交流などに加えて、災害発生時に子どもが物理的、精神的なよりどころとする役割も期待されています。

取材を通して分かったのは、子どもの居場所には子どもたちの笑顔があるということ。そして、子どもたちを見守る大人たちにも笑顔があり、どこか懐かしさすら感じる「コミュニケーションがあふれていました。

子どもたちの居場所づくりに興味を持って、沼津市社会福祉協議会(055・922・1500)までご相談ください。場所や運営費など開設に向けての相談、寄付の受付、広報の支援、後援制度の案内などのサポートを実施しています。場所を開設するとなるとハードルが高く感じるかもしれませんが、ちょっと手伝う、気に掛ける、寄付をするということも子どもの居場所づくりに参加することといえます。

昔、子どもだった皆さんへ。自分がこれまで多くの人に支えられて育ってきたように、今度は支える側になってみるのはいかがでしょう。一人ひとりの活動、そして意識が沼津に暮らす子どもたち、ひいては沼津のまちが豊かになることにつながります。

